

議会だより さんのへ



Facebook



Twitter



映像配信

第188号 (令和3年6月1日号)

- P2 予算委員会
- P4 一般質問(6議員)
- P10 議決結果一覧
- P11 議案審議、臨時報告会
- P12 請願・陳情・意見書
- P13 議会活動レポート
- P14 六戸町議会視察報告



町民、各種
団体の皆さま
へのお願い

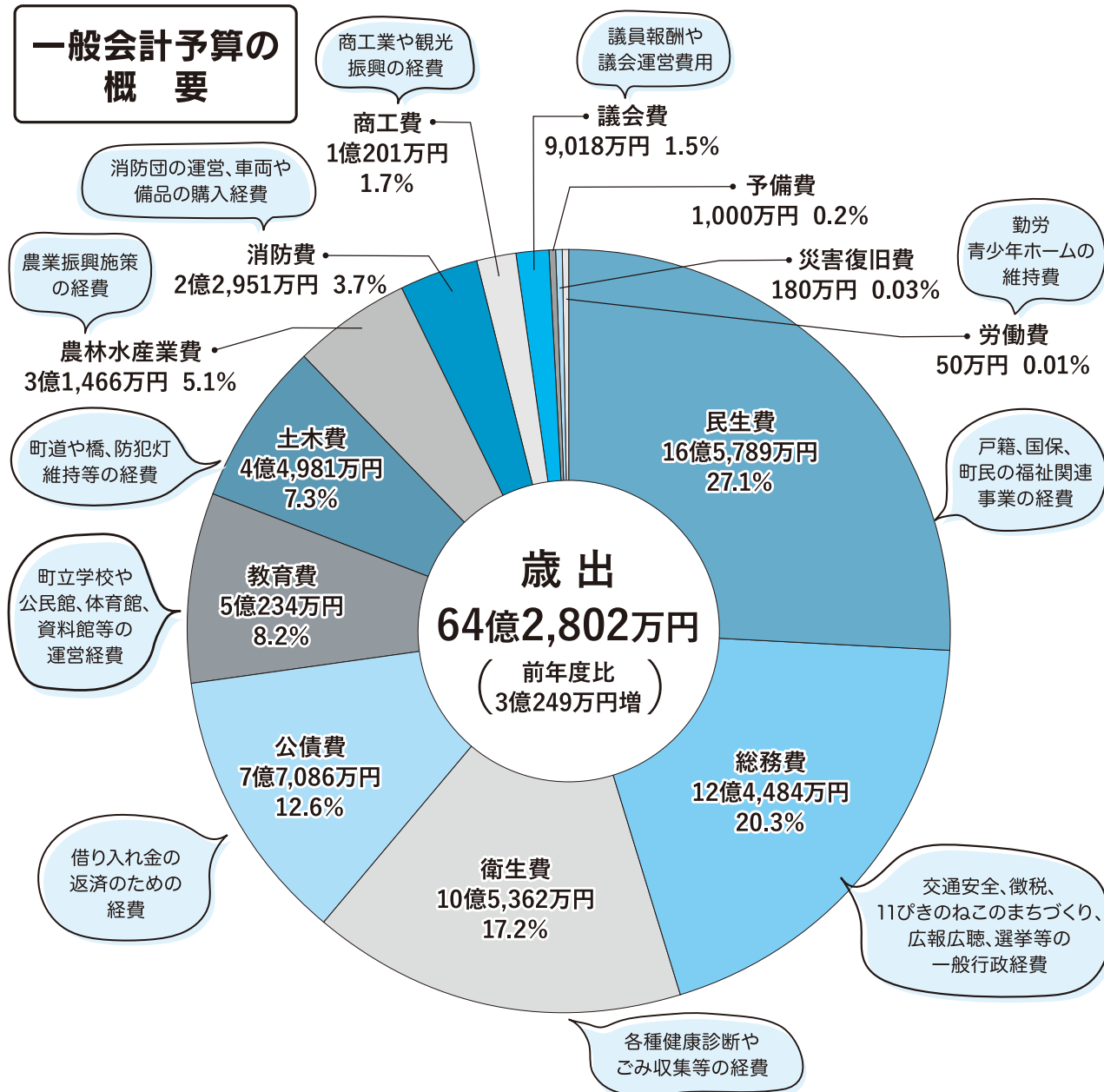
政治家に対し、寄附をするように勧誘や要求をすることは禁止されており、政治家を威迫して、あるいは政治家の当選または被選挙権を失わせる目的で勧誘や要求をすると処罰されます。政治家名義の寄附を求めることも禁止され、威迫して求めると処罰されます。

※お祭りやスポーツ大会への寄附や差し入れも寄附に当たり、禁止されています。

新年度のまちづくり予算を 認定しました。

令和3年度各会計予算を可決

一般会計予算の 概 要



特別会計予算額

会計名	新年度予算額	前年度比
学校給食共同調理場	3,643万円	180万円減
簡易水道事業	5,079万円	233万円増
下水道事業	2億2,211万円	51万円増
後期高齢者医療	1億4,002万円	442万円減
介護保険	17億8,897万円	3,683万円増
国民健康保険	12億1,407万円	5,847万円減
三戸中央病院(収益的支出)	19億1,431万円	1億120万円減

令和3年度の予算審議

私たちはココを チェックしました。



3月16日と17日の2日間、令和3年度のまちづくり事業費である、令和3年度三戸町各会計予算について、久慈総議員を委員長とする予算特別委員会によりその内容を審議しました。主な質疑は次のとおりです。

11ぴきのねこファンミーティング進行業務委託料46万円

Q 柳澤圭太委員
ファンミーティングの、今後の具体的な構想は？

A まちづくり推進課長

11ぴきのねこファンを大切にすることを取り組みとして、ファンを基盤にした町の価値の向上につなげるため、次年度以降も継続する。

移住定住促進事業費補助金1705万円

Q 佐々木和志委員
補助金額が約300万円減額になっている理由は？

A まちづくり推進課長

実績ベースでリフォーム部分が、令和2年度は元年度に比べ、5件減っていることと、家賃助成部分が縮小され、減額となったもの。

葬祭場負担金4594万円

Q 澤田道憲委員
令和3年4月供用開始の新葬祭場のペット炉建設も予算に含まれているようだが、いつ供用開始になるか。またその料金は？

A 住民福祉課長

新葬祭場ができれば、現在の葬祭場を解体し、夏までに舗装される。その後入札を経て、年度内には完成する見込みである。料金については組合議会で決定される。

捕獲わな監視システム管理費負担金7万円

Q 番屋博光委員
捕獲わな監視システム設置機器は何台あるのか。

A 農林課長

わなの作動を監視するシステムの親機が田子町に1台あり、子機が両町で30台設置されている。管理費は田子町と折半している。

ふれあい公園トイレ整備工事請負費1828万円

Q 千葉有子委員
前回、防犯カメラを設置すべきとの提案があったが設置するのか。また手洗い器具もしっかり整備してほしいがどうか。

A まちづくり推進課長

防犯対策は必要であると考えているため設置の方向で検討する。手洗いは当然設置する。

町営住宅解体工事請負費120万円

Q 竹原義人委員
町営住宅の解体は今後増えていくと思うが、何棟解体するのか。

A 建設課長

今後増えてくるが、順次できる範囲として、令和3年度は2棟、老朽化が激しいものを考えている。

無人航空機購入費151万円

Q 柳澤圭太委員

災害時のドローン3台はすべて同じ性能のものか？

A 総務課長

予定の段階だが、1機は夜間も使えるもので、残り2機は赤外線機能のない通常のものを予定している。

歴史民俗資料館会計年度任用職員報酬28万円

Q 栗谷川柳子委員
常勤ではないと思うが、歴史民俗に詳しい方なのか？

A 教育委員会事務局長

日曜祝日の歴史民俗資料館資料解説員として、議会の活性化委員会では三戸城跡活用講師をした木村明彦氏を置くもの。

三戸中央病院特別会計

Q 佐々木和志委員
ここ数年赤字予算となっているが、赤字圧縮に向けた取り組みはあるか。

A 病院事務長

新型コロナウイルスによる患者の減や会計年度任用職員制度導入による経費の増で非常に厳しい経営状況だが、患者の受け入れ態勢をより整備し、また連携室等を通じ患者の確保を進め、収益の改善を図ることと、一層の経費の削減に努める。

久慈 聡 議員



Q1 高齢化の進む町の今後の高齢者支援について

三戸町地域包括支援センターは、高齢者の生活を支える総合機関として、また介護予防ケアマネジメントの拠点として、多くの相談、支援を行っている。センターでは虚弱高齢者等への取り組みも数多く実施していると思うが、必要な人に、必要な支援が行われているのか。また、その管理体制や運用管理はどのように行われているのか。

A 松尾町長

物忘れや転びやすいなどのフレイル（虚弱）状態の高齢者を早期に発見し、介護予防や日常生活の支援につなげるため①民生委員・地域住民の連絡・相談②関係機関との連携による把握③サービス提供事業所による見

守り④役場職員のテレフォンボランティアによる見守り・連携⑤認知症チェックリストアンケートによる把握⑥保健師地区活動による把握の6つに取り組んでいる。

また、介護予防事業には、①運動機能の向上、閉じこもり②認知症機能の低下予防及びうつ予防プログラムを提供する「生き生き教室」③地域の高齢者が集い、体操や交流で心身の機能の維持向上を図る「通いの場活動」がある。これらの事業はP D C Aサイクルで事業管理され、地域包括支援センター運営協議会等で報告し、意見をいただき運用管理を行っている。

再質問①

第7期介護保険事業計画には、高齢者の7つの在宅の生活支援のうち、見守り配食サービス、外出支援サービス、一人暮らしホットライン、ほのぼの見守りネットワークの利用者はどのくらいいるのか。

A 健康推進課長

見守り配食が登録者149名。外出支援が登録者102名。ほのぼの見守りが訪問日数で6038日稼働。一人暮らしホットラインは115名対象。

再質問②

第7期介護保険事業計画では、事業の細分化でサービスを受ける側への伝わりづらさも感じた。だからこそ、第8期計画策定では、地域包括支援センターのほか、社会福祉協議会、町内会、民生員児童委員といった地域資源が重要な役割を担うと考えるが、これを町全体として、どう捉えているか。

A 健康推進課長

地域包括支援センターは相談により支援を受ける場所へ繋ぐのが責務であるため「さんのへま」高齢者・障がい者・医療・介護・福祉サービス」という冊子を毎年更新し、情報提供している。

再質問③

人材不足の中、包括支援センターの役割は大きくなり、地域財産を有効活用し、地域で支える必要があると思うが、町長はどう考えているか。

A 松尾町長

介護等を受ける人は一定期間までは増えていくが、その先は減少することから、町は人口バランス等を考える必要がある。人材の確保については例え

ば東南アジアから来てもらう話もあった。やれることをしっかりと取り組むことだと考える。

まとめ

地域包括支援センターをはじめ、社会福祉協議会や民生委員児童委員による、地域の、少し見守りを要する人に対しての支援が行き届いているか確認できた。福祉とは人間が人間を支援するものであるが、利用者に分りやすく、漏れのない支援の継続のため、予算や、人的資源がより厳しくなっていく現状の中、過剰労働にならない仕組み作りをお願いしたい。

Q2 PCR検査への助成について

県内外の自治体で、新型コロナウイルス感染者が発生した福祉施設等を有する法人に対して、感染拡大防止と施設運営の継続支援のため、行政検査の対象外とされた職員や入所者に対し、法人が独自に行うPCR検査の費用の一部を補助している。

町内でも福祉施設職員等はいすくを感じながら仕事をしているが、業務継続のためPCR検査を実施すべきと判断した際、町は検査費用を助成する考えは

ないか。

A 松尾町長

福祉施設の方は業務に不安を抱えていると思うが、町内では感染拡大の状況にないため、基本的な予防策を継続することが重要である。自由診療による検査は、医療機関の判定能力や精度管理体制への疑義も指摘されており、助成については感染拡大の懸念など、状況の変化により必要に応じて検討したい。

再質問①

保健所が濃厚接触者と判断すれば検査可能だが、そうではない接触者は非常に不安である。またBCPによる情報提供から情報が漏れ、風評被害を受ける企業もある。組織運営を支援するべき自治体としてコロナ支援を前向きに考えられないか。

A 松尾町長

施設を運営する人びとの心配、風評への懸念は十分理解している。一方で、科学的な証明が風評を抑える一番の方法であり、医師の判断により安全であるとの判断で不安を打ち消すべきと考えることから、その都度状況を鑑みて適切に対処していきたい。

栗谷川柳子 議員



Q1 災害に強い町づくりについて

町長は選挙の際に「さらに前進！防災対策」と掲げ、自主防災組織の拡充と災害に強い町づくりのため運用の見直しや防災士を活用した体制整備を支援すると示し、当選後の挨拶でも防災対策に注力する旨を話しており、心強く思うが、今一度、防災対策についての考えに加え、以下の3点について質問します。

① 「自主防災組織の拡充」

第5次三戸町総合振興計画内「防災・消防体制の充実」の成果指標には、自主防災組織数は2018年度時点で13団体、2023年度目標は24団体とあるが、現在どう進めているのか、また課題はあるか。

A 松尾町長

防災士資格を有する職員を町内会へ派遣し、組織体制構築を支援するほか、各種研修会等への参加も積極的に呼びかける。まずは町民一人ひとりが、自分の命、地域は自分で守るという意識を持ち、災害発生時には生活環境を共有する住民同士の連携・協力の必要性について理解をいただき、設置を促したい。

② 「災害に強い町づくりのために運用の見直し」

具体的にどういうことを見直すのか。

A 松尾町長

日々の生活の中で自分たちの安全を守ることや、隣近所が協力することが防災へつながることから、災害時は地域住民が互いに助け合えるよう連絡体制を見直す。

また、防災意識向上のため、町内会や学校での防災教育を支援する。

③ 「防災士を活用した体制整備」
具体的にどのような体制整備を考えているのか。

A 松尾町長

資格を有する職員により、県の防災ハンドブックや町のハザードマップを活用し、平時の備えや災害時の行動など、防災・減災に対する講習会を開催するなど、防災の意識づけを行い、官民一体の災害に強い町づくりを推進する。

再質問①

高齢化や過疎化で自主防災組織をつくれない地区や、経験上必要性を感じていない地区での促進はどう行うのか。

A 松尾町長

必要性を感じない地区はないと考える。

どの地区にも、毎回山から水が流れるなどの危険などころがあり、また、ふだんあの家では何時ごろ家に帰っているが、今日は出かけているなど、情報の横のつながりや相談ネットワークを作るだけでも組織の入口となる。

そのうえで何が必要かなどの相談機会を増やし、設置、運用改善と進めたい。

再質問②

役場だけでなく地区の自主防災組織にも防災士を増やすべきと思うがどうか。

A 松尾町長

地域に防災士が増えれば自分の命を守り、かつ周囲へ助言・相談体制ができるなど、いざという時に非常に大きな力となる。今後は機会をつくり、育成に努める。

Q2 小学生や高校生からの意見提案の取扱いについて

1月に三戸高校で県教委の「高校から取り組む人口減少対策プロジェクト事業」の一環で、地域創生アイデアコンテストが行われ、2月には斗川小学校で「町長と語る会」が開催された。

児童生徒なりに町の課題を捉え、解決に向け一生懸命考えたアイデアが発表されているが、行事後に、これらアイデアはどのように取り扱われているのか。

A 松尾町長

斗川小での町長と語る会での、ねこの石像にQRコードを付け、読み込むと特典があるアイデアは、担当課に伝えられ、「11ぴきのねこのまち さんのへ」エンジョイアプリの機能の参考にした。今後も可能な限り子どもたちの夢の実現に役立てたい。

再質問①

自分のアイデアが採用されることは、町づくり参画の成功体験として将来の町を担う人材育成となるため、企画会議等にも参画させてみてはどうか。

A 松尾町長

子どもたちのやる気や夢を育てていけるよう、今後とも子どもたちのアイデアの実現に協力していく。



斗川小学校での「町長と語る会」

千葉 有子 議員



Q1 これまでのまちづくりと、これからのまちづくりについて

町長は政策広報や年頭のあいさつで、これまでの4年間でできたこと、できなかったこと、これから目指すことを示しているが、その中で以下の4点について質問します。

①人口減少の歯止めについては、未達成と記されているが、町の長期人口ビジョンについての町長の考えは。

A 松尾町長

これまでの移住定住対策事業の結果、町の人口減少は推計よりも緩やかになっている。今後雇用創出、子育て環境の充実、健康づくりの推進等に取り組み、移住定住施策を推進する。

②「三戸地域の歴史とともに産業体験を進める」とあるが、具体的にどのような事業か。

A 松尾町長

町内産業は高齢化で、担い手育成が重要課題であることから、その産業を知るための記録・教材を作り、データベース化することで、担い手の育成と町のPRに活用する。

このほか立志科ではキャリア教育1年から9年まで段階的に行っている。

③継続中の取り組みに「商店の活気を取り戻す」とあるが、これにこれまでどのくらいの経済的支援で、何かなされ、今後は何を行う考えか。

A 松尾町長

商工会補助金、プレミアム商品券発行補助金、夏まつり、まける日補助金、空き店舗活用補助金、商店街の元気づくり補助金など、この3年間で3063万円。令和3年度は補助金を整理し、店舗改修、販路開拓など、事業者が自ら取り組む事業に活用できる、商工業パワーアップ事業費補助金の創設や、ふるさと納税返礼品開発への補助も行う。

の補助も行う。

④仮のネーミングで「見てよくわかる町の予算資料集」の作成とはどのようなものか。

A 松尾町長

町の見える化推進のため、予算の概要や各種事業についてわかりやすく伝える資料集として今後検討していく。

Q2 奨学金制度と学生支援について

当町の奨学金制度について以下の3点について伺います。

①入学金を入学金準備金として年内に募集、決定して貸付を行っている自治体もあるが、当町での改正の可能性は。

A 友田教育長

現在貸付金の額や返済期間等の改善を検討しており、学生の修学機会の確保につながる制度に見直しを図る。

②町や三戸中央病院の奨学金、まちづくり推進課の奨学奨励金等を一覧にして周知できないか。また令和元年12月議会で情

報の周知を提言したが、現況は。

A 友田教育長

一覧にして周知を図る。また、早めの周知として、9年生だけではなく中学生全員を対象を広げる。

③総務省が策定した「奨学金を活用した若者の地方定着促進要綱」により、町が定住支援策として返済免除をした額の半分が、特別交付税措置されることを受けての取り組みは。

A 友田教育長

三戸町奨学金貸付条例、佐藤義典奨学金貸付条例が、償還の免除ではないが、対象事業として実施している。

再質問①

奨学金貸付要綱の提出書類に健康診断書とある。心身の健康は大事だが、提出不要の自治体もある。これについて町の考えは。

A 教育委員会事務局長

条例で心身健全な者を要件としているため提出を求めているが、これについても全体の見直しの中で要不要の検討を行っているところである。

Q3 新型コロナウイルス感染症対策について

ワクチン接種準備体制として、接種場所、医師・医療関係者の確保、個別、集団、地域をまたいでの接種方法など、現段階での体制は。

A 松尾町長

三戸中央病院の医師による、アップルドームでの集団接種とする。接種は平日午後1日200人程度を想定している。65歳以上の高齢者への接種券や案内チラシは、ワクチン供給時期・量が明らかでないため、確定に合わせて発送する予定。高齢者施設の入居者は、国から実施方法が示されたことから、施設での実施に向けた調整を行ったところである。

再質問①

接種会場がアップルドームだが、ワクチン接種による副反応に対する準備はあるか。

A 健康推進課長

接種会場にアドレナリン製剤など救急処置に必要な物品を常備し、対応する。

竹原 義人 議員



Q1 暴風雪等に対する住民の安全・安心対応について

2月15日夜から16日にかけて、急速に発達した冬の気圧配置により暴風雪警報が出されたが、三戸町では暴風雪などのような被害があつたのか。

また被害はなくても、テレビ報道や吹雪の景色、暴風の音等で高齢者の中には怖く不安になる方もいたと思うが、簡易避難所等開設できないか。

A 松尾町長

暴風の被害は、住家や旧わがば児童館、町営住宅の屋根のトタンの剥離、役場庁舎前車庫のシャッター損壊のほか、旧北小付近で倒木により電柱や電線の損傷被害が発生し、県道を通行止めにした事案やビニールハウスの損壊、停電等も見られた。

避難所については、暴風雪警報発令中の移動は危険が伴うことから、不要不急の外出を控え、屋内にとどまるべきと考え、開設しなかったが、一人暮らしの高齢者の注意喚起と不安解消を行った。

Q2 指定管理者の管理状況と検証は

町は指定管理業務の実施に当たり、協定等に従ってサービスが適正かつ確実に提供されているか確認・検証し、その結果を町民に説明することで、さらなるサービスの向上を目指すべきが、道の駅、SAN・SUN産直ひろば、パークゴルフ場の3施設の指定管理による運営上の課題と検証・評価・支援体制は。

A 松尾町長

道の駅は毎月運営委員会が開催され、町職員もオブザーバーとして参加し、密接に連携し、運営を支援している。令和2年度はコロナで厳しいが、それまでは順調に売り上げが伸びており、今後も地場産業の振興を図る。三戸町農林産物直売施設は、指定管理者制度の導入で管理運

営の効率化、経費削減が図られ、売り上げも伸びており、農業者の所得向上と町の活性化につながっている。



道の駅さんのへとSAN・SUN産直ひろば

A 友田教育長

パークゴルフ場は指定管理者と連携を取り、関係者で組織する運営協議会において管理状況の報告・協議を行っている。芝生の育成が課題であったが、現在は安定しており、適正な管理がなされている。



さんのへパークゴルフ場

Q3 連携協定の成果と今後の取り組み・「友好の桜」の植樹について

三戸町出身で中央大学学生会白門44会支部の藤原薫氏との縁で発足した、白門リンゴの会は、震災復興支援、三戸リンゴのブランド向上、地域おこし、生産者との交流等を目的に、100名を超えるメンバーが加入し、毎年三戸リンゴを食べていただいている。

リンゴの会の仲介により、中央大学理工学部と三戸町との地域個別連携協定の締結、学食での三戸リンゴを使った特製カレー販売、大学ホームカミングデーにおけるリンゴ即売会、町内でのリンゴの収穫体験と、地元住民、地元白門会等との交流を通じてブランド力向上への貢献から、平成29年、町は白門リンゴの会へ感謝状を贈呈している。

会発足から10年を迎え、会員から記念に残るイベントをとの提案があり、会員の思いを桜に託し「友好の桜」として城山公園への桜の植樹が令和2年9月に企画された(新型コロナウイルスのため令和3年9月予定に延期)。

そして、町へ友好の桜と記念石碑並びに金員を寄付され、交流の発展と本町振興に寄与されたことにより、令和2年7月、町から2度目の感謝状が贈呈されている。

このように深い関係を築き、10年を迎えたが、連携協定の成果と今後の取り組み、そして「友好の桜」植樹式典等について町としての対応を伺います。

A 松尾町長

三戸リンゴのオーナー制度、学食でのカレー販売等、白門リンゴの会の取り組みは町が進める三戸リンゴのブランド化に大きく寄与しており、今後も良好な関係を継続したい。

理工学研究所との連携協定では、農作業アシスト装置の商品化が実現したことから、機器の導入を推進したい。

友好の桜植樹式は、新型コロナウイルスを考慮しつつ、会の意向を聞きながら、できる限り協力したい。



乗上 健夫 議員



Q1 農業経営の強化について

町は第2期総合戦略を策定し、農業振興の数値目標や方向性等を示した計画を示していることから、以下について聞きます。

1. 農業経営基盤強化のための規模拡大等の支援策としてスマート農業の導入を推進するとしているが、以下の状況は。

- ① 導入している農業の形態（水田、畑作、果樹等）
- ② 導入された機種と数
- ③ 導入による費用対効果
- ④ スマート農業導入・推進の計画・対策について

A 松尾町長

- ① 現在の導入数は、3台のド

ローンでの水稲への薬剤散布の実施が2団体、畑作用自動操舵トラクター1台の導入農家1軒、農作業用アシストスーツ1基の導入農家1軒の計4件。

③ 肉体的負荷軽減の数値化は難しいが、農水省の報告では、労働時間は12%の減となるが、機械費により、利益が7%減となるため、導入時の費用負担が大きい。

④ 導入経費の負担軽減のため、中山間地域直接支払交付金、機械や装置を導入できる、生産性向上加算の活用を促しており、令和6年度までに13の集落協定で取り組みが行われる。

2. 新規就農者の確保・育成の取り組みについて以下の状況は。

- ① 令和元年度、2年度の数
- ② 定着状況（研修中または、農業経営をはじめているか）

A 松尾町長

① 町では国の農業次世代人材投資事業を活用し、新規就農者の早期経営確立支援をしており、平成24年度以降32人が

就農、うち24人が農業次世代人材投資資金の交付を受けた。令和元年度、2年度の新規就農者はない。

Q2 高齢者対策について

町が65歳以上の町民を対象に実施した、健康と暮らしの調査結果の中で以下について質問します。

- ① ひとり暮らしで近親者等身寄りのない方がいるのか。
- ② 相談窓口等あるか。
- ③ 死亡時などの町の対応は。

A 松尾町長

① 介護申請や介護相談を通じ、身寄りのあるなしも把握している。

② 健康推進課内に地域包括支援センターを開設し、総合窓口として、一人暮らしの高齢者の相談にも応じている。

③ 親族がなければ火葬・埋葬を死亡地の市町村長が行うなど、法に基づいて対応している。

研修報告①

議会運営委員会

藤原・久慈・千葉・栗谷川・山田・柳零

議会改革のさらなる推進のために



2月16日、議会改革の推進を担当する議会運営委員会が、今後の議会改革の進め方や、3月議会前に初めて行う、議案についての議員間討議の手法について学ぶため、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員の佐藤淳氏を講師に招き、研修会を開催しました。ゝ

研修報告②

三戸町活性化対策特別委員会

（全議員所属）

城山公園の利活用法を探る

2月16日、全議員で構成される三戸町活性化対策特別委員会が、調査テーマのひとつとしている城山公園の活用策を探るため、研修会を開催しました。

この日は「三戸城跡 国史跡登録後の動向について」と題し、三戸町文化財審議委員やこのへ

議会改革については、各議員がこれまでの進展度をどう捉えているかを発表したあと「うまくできていること」「うまくできていないこと」「次年度取り組みたいこと」について意見を申し合いました。

議員間討議については、政策提言を前提とした問題の洗い出しや、意見の擦り合わせを行う場とし、ワークショップ方式で意見の出しやすい雰囲気づくりをし、議会での質問の質を上げることが重要であるとアドバイスを受けました。

和田 誠 議員



Q1 理解と信頼のある
三戸中央病院を

①地域で重要な役割を果たしている三戸中央病院の維持・存続について、町長の考えは。

A 松尾町長

医師、看護師不足に加え、新型コロナウイルスと病院経営は厳しい状況であるが、県には国の統廃合には安易に乗らないよう説明しており、今後も地域の中核病院としての地域医療の確保に努める。

②2階病棟の活用の考えはあるか。

A 松尾町長

休床中の2階病棟は現在、新型コロナウイルスの入院患者を受け入れるため、特別病床として準備を整えている。

③医師、看護師確保のため具体的対策を行っているか。

A 松尾町長

医師については関係方面への働きかけを継続的に実施し、少しずつ成果が見えているため、今後も継続していく。

看護師の確保は、県病との共同採用試験参加や、近隣の教育機関への働きかけ、紹介会社の活用等で令和3年4月採用が4名、5月採用が1名となっており、引き続き人員確保の取り組みを継続する。

再質問①

奨学金はどれくらいの人が利用しているのか。

A 病院事務長

病院では、医師向けと、看護師等医療要員向けの2種類の奨学金があり、医師奨学金は1名利用し、現在他病院で研修中。医療要員奨学金は5名が利用し、2名が三病に勤務。1名は三病勤務後に転職し、残る2名は学校卒業後他病院勤務している。

Q2 三戸高校存続運動について

署名運動の経過・結果と、今後の存続運動についてどう考えているか。

A 松尾町長

9月下旬に青森県立三戸高等学校と地域の未来を創る会を設立し、1か月で1万1473筆の署名をいただき、県知事、教育長へ提出した。県は今年2月までの3回の地区意見交換会をふまえ、令和3年度中に青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画を策定予定。令和3年度は資格取得に加え、通学費や部活動遠征費の助成なども行い、生徒に選ばれる魅力ある高校として存続できるよう支援する。



署名活動のようす

郷土館の館長を務める木村明彦氏を講師に迎え講演していただきました。



木村氏は、県内外の国指定史跡の活用状況を紹介しながら、教育委員会が作成する計画書を基にしたグラウンドデザインに沿って総合的なプランを作成し、長い時間をかけて利活用策を進めていくことが大事であり、全町民が誇りと愛着を持つ三戸城跡である必要があると語り、議員それぞれが得意分野で「史跡をどう生かすか」を考えてほしいと締めくくりました。

議員活動報告

初めての議員間

討議を開催

3月3日、3月議会の議案について議員間で協議を行う「議

員間討議」を開催しました。

議員間討議は、町長の提案に対し、議員が質問し、さらに町長が応答する審議とは異なり、議会で審議する前に論点を整理したり、意見の擦り合わせを行う自由討議のことを言い、三戸町議会で議案に関する議員間討議が行われるのはこれが初めてとなります。

この日は全議員が常任委員会ごとに3グループに分かれ、議案のうち特に町の令和3年度予算についてそれぞれ意見や疑問点を出し合い、その後各担当課から予算案についての疑問点等を聞き取りし、全体での話し合いを行って情報を共有しました。



議 決 結 果 一 覧

議案番号	件 名 と 概 要	議決月日	議決の結果
議 案 第 2 号	三戸町職員のハラスメントの防止等に関する条例の制定について 【概要】法改正に伴い、町職員のハラスメント防止、相談体制の整備、責務について条例化するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 3 号	三戸町立学校設置条例の一部を改正する条例案 【概要】令和3年度末をもって杉沢小中学校を廃止し、三戸小・中学校へ統合するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 4 号	三戸町スポーツ文化福祉複合施設の設置及び管理運営に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】アップルドーム内に設置される「コワーキングスペースさんのへ」の事業目的や使用料を定めるもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 5 号	三戸町国民健康保険条例及び新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した三戸町国民健康保険被保険者等に係る国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】新型インフルエンザ等対策特措法から新型コロナに関する規定が削除されたため、これを引用する町の条例も合わせて改正するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 6 号	三戸町介護保険条例の一部を改正する条例案 【概要】町介護保険事業計画等推進協議会からの答申に基づき、令和3年度～5年度の第1号被保険者の保険料基準月額を7,620円から7,720円に改正するもの。また、国の省令改正に伴い、住民税課税者の第7～10段階の基準所得金額を改正するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 7 号	三戸町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例案 【概要】省令の改正による介護サービスに係る基準の改正に伴い、関係条例4本を改正するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 8 号	三戸町道路占用料等徴収条例の一部を改正する条例案 【概要】道路法施行令の改正に伴い、これを準用している町道占用料の額等を改めるもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第 9 号	三戸町消防団の設置及び定員、任免服務等に関する条例の一部を改正する条例案 【概要】町消防運営審議会からの答申により、消防団員の実情に応じた定年制の延長を図るもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第10号	三戸町教職員住宅使用料徴収条例を廃止する条例の制定について 【概要】令和3年度末の杉沢小中学校の閉校に伴い、当該条例を廃止するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第11号	町道路線の変更及び廃止について 【概要】町道沖中7号線の終点の変更及び、元木平5号線の町道認定廃止について、議会の議決を求めるもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第12号	青森県市町村総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更並びに青森県市町村総合事務組合同規約の変更について 【概要】十和田地区環境整備事務組合の解散等に伴い、当該組合を組織する地方公共団体数の減少、共同処理事務の変更、規約の変更のため、議会の議決を求めるもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第13号	青森県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び青森県市町村職員退職手当組合同規約の変更について 【概要】十和田地区環境整備事務組合の解散等に伴い、当該組合を組織する地方公共団体数の減少、共同処理事務の変更、規約の変更のため、議会の議決を求めるもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第14号	三戸町民プールの指定管理者の指定について 【概要】株式会社サンアメニティを町民プールの指定管理者として指定するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第15号	令和2年度三戸町一般会計補正予算（第8号） 【概要】歳入歳出ともに9483万円の増額。歳入は地方交付税や寄付金等の増、歳出は病院操出金、橋梁補修設計委託料の増のほか、町有林整備事業委託料、GIGAスクール事業費の減。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第16号	令和2年度三戸町営簡易水道事業特別会計補正予算（第2号） 【概要】歳入歳出ともに437万円の減額。歳入は町債の減額。歳出は管理費の減額。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第17号	令和2年度三戸町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号） 【概要】歳入歳出ともに356万円の減額。歳入は保険料の減額や繰入金金の増。歳出は各種負担金の増。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第18号	令和2年度三戸町介護保険特別会計補正予算（第2号） 【概要】歳入歳出ともに655万円の減額。歳入は保険料の現額と繰入金金の増額。歳出は総務費、地域支援事業費の減と、保険給付費の増。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第19号	令和2年度三戸町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号） 【概要】歳入歳出ともに2457万円を増額。歳入は国保税、県支出金等の減。歳出は総務費、保険給付費の増と保険事業費の減。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第20号	令和2年度三戸町国民健康保険直診勘定三戸中央病院事業特別会計補正予算（第5号） 【概要】収益的収入は一般会計繰入金など1億5008万円の増額、収益的支出は医業費用の決算見込みによる8220万円の減額。資本的収入は企業債の減額と医療機器補助金の増による934万円の増額、資本的支出は581万円の増額。	3月15日	原案可決 (全会一致)
意見書案 第 1 号	「学校給食の無償化」を求める意見書案 【概要】国の責任において、学校給食の無償化を図るよう、議会が関係省庁へ意見書を提出するもの。	3月15日	原案可決 (全会一致)
議 案 第21号～ 第28号	令和3年度三戸町一般会計予算、各種特別会計予算（※2～3ページ参照）	3月17日	原案可決 (全会一致)

議案審議

議案第4号関連

【概要】

アップルドーム内に、インターネットを使って個々に働く人が共同で利用できるスペースである「コワーキングスペース」を設置し、料金などの必要な事項等を定めるもの。

Q 栗谷川柳子 議員

中学生は利用できるのか

中学生以下の利用料が示されていないが、中学生が申し込んだ場合は？

A まちづくり推進課長

国内のコワーキングスペースの利用状況を聞くと、設置の目的や趣旨に合致した使い方を考えると高校生以上が適当であると考え、高校生以上としたため、中学生は利用できない。

Q 久慈 聡 議員

新型コロナワクチン接種会場との兼ね合いは？

アップルドームが新型コロナワクチン接種会場になれば、アリーナは使用できなくなるが、コワーキングスペースも利用の制限や管理法の変更がなされるか？

A まちづくり推進課長

コワーキングスペースの設置により特別な窓口できるわけではなく、ワクチン接種が始まって利用者は現状の受付を通過していただく予定。

議案第6号関連

【概要】

介護保険第1号被保険者の基準月額を「7620円」から「7720円」に改正するものなど。

Q 佐々木和志 議員

町村の保険料の現状は

100円の値上げだが、報道されれば住民は、郡内で三戸が一番高いというマイナス印象を持つ。制度上値上げは仕方ないが、町村の保険料の現状をどう考えているか、また介護予防について新しい事

業は考えているか？

A 健康推進課長

どの自治体も3年間の保険給付の予測値を基に、同じ計算方法で決定している。三戸町では85歳を超えた年齢で新規に介護が必要になり申請する方が多いのが特徴。

議案第9号関連

【概要】

職場定年退職後も活躍できるように、消防団長、副団長の定年を65歳から68歳へ引き上げるもの。

Q 千葉 有子 議員

女性団員の発掘は

現在女性団員は何人いるのか、また女性団員の発掘についての町の意識は？

A 防災危機管理室長

現在女性団員は17名。うち階級は部長1名、班長1名となっている。入団している女性団員から声をかけていただき、増員を図りたい。

第495回三戸町議会臨時会

4月15日、第495回三戸町

議会臨時会が開催されました。議会では、専決されていた税に関する条例改正2件の承認と、友田教育長の辞任に伴い、元三戸学園三戸小中学校校長の慶長隆光氏を新たに教育長に任命する議案1件に同意しました。



慶長隆光 新教育長

議決結果一覧

議案番号	件 名	議決月日	議決の結果
報 告 第1号	専決処分した事項の報告及びその承認を求めることについて（三戸町町税条例等の一部を改正する条例） 【概要】国の法律の一部改正に伴い、町の条例の一部を改正したものの。	4月15日	原案承認 (全会一致)
報 告 第2号	専決処分した事項の報告及びその承認を求めることについて（三戸町承認地域経済牽引事業のために設置される施設に係る固定資産税の特別措置に関する条例の一部を改正する条例） 【概要】省令の一部改正に伴い、町の条例の一部を改正したものの。	4月15日	原案承認 (全会一致)
議 案 第29号	三戸町教育委員会教育長の任命につき同意を求めることについて 【概要】慶長隆光氏を新たに教育長として任命するもの。	4月15日	原案同意 (全会一致)

請願 陳情 審査 結果

請願とは？ 国や地方公共団体に対してお願いをすること。日本国憲法でその権利を保障しており、議会が受理します。請願をする場合には請願を提出する議会の議員の紹介が必要です。

陳情とは？ 請願同様、特定事項に利害のある住民が公共団体等に実情を訴え、適切な措置を求めるもの。法による保障はなく、紹介議員も必要ありませんが、住民の声として請願と同様に対応しています。

意見書とは？ 法に基づき、地方公共団体の公益に関することについて、議会の意思を文書化したもので、これを国会や関係省庁などに提出します。

陳情 第 2 号

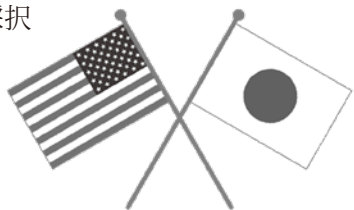
「日米地位協定の抜本的見直しを求める陳情」
【陳情の要旨】

1960年に結ばれた日米地位協定は、国会で十分審査されず、改正もされていない。三沢基地の米軍機は幾度となく事故を起こしており、県民の不安も広がっているため、抜本的な見直しを求める意見書を国へ提出してほしい。

【審査機関(総務文教常任委員会)の意見】

市町村に権限がない外交問題に関連することであるため、採択することは適当でない。

【審査結果】 不採択



陳情 第 5 号

「砂利道の舗装に関する陳情」
【陳情の要旨】

近隣住民の生活道路であり、三戸保育園の通園道路となっている同心町字古間木平地区の砂利道が、大雨後にぬかるみ、昼夜を問わず危険性があり通行困難となる。幼児、高齢者の安心・安全のため、町道認可舗装してほしい。

【審査機関(建設農林常任委員会)の意見】

町道認定されておらず、利用者も少なく、う回路もない。平成14年から公衆用道路となり、碎石補充、穴埋め、除雪等を継続していることから、すでに採択された必要性の高い未着手案件を優先するのが適当である。

【審査結果】 不採択

陳情 第 1 号

「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情

【陳情の要旨】

東京の最低賃金の1,013円に対し、青森県の最低賃金は793円と低く、若者流出の原因となっている。誰もが安心して暮らせる社会づくりのため、全国一律1,500円以上の最低賃金を目指し、かつ中小企業が経営を維持できるよう支援する意見書を国へ提出してほしい。

【審査機関(民生商工常任委員会)の意見】

コロナ禍で中小企業が経営の維持に全力を注いでいる中、賃上げに言及するのは時期尚早である。

【審査結果】 不採択

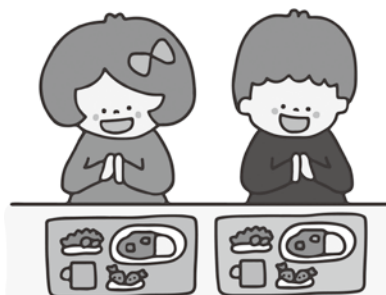
提出した意見書

「学校給食の無償化」を求める意見書
【意見書の概要】

国の責任による学校給食の無償化を求める陳情が令和2年12月議会で採択され、議会は3月議会に標記の意見書案を提出し、全会一致で可決しました。

【提出先】

内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長



議員活動レポート



総務文教常任委員会

山田 将之・千葉 有子
小笠原君男・越後 貞男
佐々木和志

【調査事項】

町の税務、財務状況の現状と見通しについて

2月19日、町の税務、財務状況の現状と見通しについて、当局の担当課長・職員から説明を受け、調査を行いました。

【主な調査結果・意見等】

①町の財務状況の現状と見通し

人口減少により地方交付税等の減少が続くため、歯止めが必要。過疎債は交付税措置されるメリットがあるが、後年度の財政硬直化が懸念される。このように厳しい状況下ではあるが、これまで以上に創意工夫に取り組み、喫緊課題であるコロナ対策や人口減少の抑制、町民所得の向上につながる事業の展開を。

②町の税務状況の現状と見通し

コンビニ収納の導入や個別訪問等により、収納率は高水準を維持しているが、滞納者の固定化や長期滞納

者の増等がみられる。行政運営において自主財源の確保と公平な負担・徴収は重要不可欠であり、住民理解のため、日ごろから税等に対する啓発推進・納付意識の向上に努めてほしい。



民生商工常任委員会

藤原 文雄・栗谷川 柳子
柳 平 圭太・乗上 健夫
竹原 義人

【調査事項】

コロナ禍における町内企業の経営状況等について

2月22日、コワーキングスペースSANNOWHE設置業務の進捗状況と、地域商社SANNOWAの運営状況について調査を行いました。

【主な調査結果・意見等】

①コワーキングスペースSANNOWHE設置業務の進捗よく状況

・4月の業務開始に向けてしっかりと事業を進め、多くの人に利用してもらえよう、周知、宣伝を。

また、入退室・延長の対応や、飲食についての説明は明確にすべき。使用者の需要を把握し、小規模なレイアウト変更をする等柔軟な対応を。

②地域商社SANNOWAの運営状況

・銀行が融資できるぐらいのしっかりとした方向性・計画を定め、コンパクトな体制で今と同様の売り

上げをあげられるよう努力を。また地域商社の仕事に集中して一次製品の販売を増やし、謙虚に数字を伸ばす努力をし、自立を。
・議会もSANNOWAは残したいため、何かあったら町も議会へ早めに相談してほしい。



建設農林常任委員会

久慈 聡・番屋 博光
和田 誠・澤田 道憲

町公共工事及び冬期の道路管理状況について調査予定でしたが、調査日に強風災害が発生したため、5月に再調査となりました。

視察報告

3月23日、議会運営委員会の委員と正副議長が、県内でも早くから議会改革を進めている六戸町議会を視察しました。



◆報告

1. 議会改革の経緯

六戸町議会の議会改革は、平成23年の島根県邑南町議会への行政視察から始まり、野辺地町、福岡県川崎町との意見交換を経て議会改革検討委

員会を設置。約50項目について協議・検討し、平成26年12月に議会基本条例が制定された。

2. 六戸町議会基本条例

条例は「町民参加」「開かれた議会」「活発な討議」の3点で作られ、規定どおり2年ごとに条例の目的の達成度や今後の対策を5段階評価で検証し、検証結果はホームページや議会だよりで『議会の通信簿』として情報公表している。

3. 議会報告会・意見交換会

当初の議会報告会は対面式で、発言する住民が限られ、また議会への不満や行政へのお願いが多く、前向きな意見が少なかつたため、3回目からはワークショップ形式とし、中学生から一般までの地域住民と、原則として年に2回以上開催している。

4. その他

・平成31年はそれまでの述べ37人、164項目の一般質問について検証を行った。

・議員が年末に議場等の大掃除を行っている。

・タブレットの導入は予算、情報管理等の問題で保留中。

・事務連絡には「LINE」を活用しており、リモート会議も検討中。

5. 視察を終えて

六戸町議会は、県内でも早い段階で議会基本条例を制定し、議会改革を行ってきた。

当町議会は議会基本条例を制定していないが、やることから改革を進めており、その内容は似たものであったが、一般質問の検証などは私たちも実施すべきと感じた。

当町議会では定例会の日程や一般質問内容はホームページやSNSで発信しているが、六戸町議会では町内店舗や銀行などに掲示し、インターネットを使わない住民へも発信しており、取り入れていきたい。

今回の視察内容を全議員で共有し、今後も議会改革を進め、議会基本条例や政治倫理条例の制定へ繋げたい。

(報告者 山田将之)

三戸町議会定例会(6月議会) 予定(全日10:00開始)

6月4日(金)	開会、町長による議案の提案理由の説明
6月7日(月)	議案熟考のため休会
6月8日(火)	一般質問(議員が町長などへ町政全般にわたって質問)
6月9日(水)	一般質問(予備)、議案の審議・採決(条例制定や補正予算など)、閉会

※新型コロナウイルス感染症予防のため、傍聴者数の制限を行っています。ご了承ください。

編集後記



新型コロナウイルスの感染拡大による世界の閉塞感の中、大きな社会問題であった人口減少や少子高齢化等の言葉を報道等で聞くこともめっきり少なくなったように感じます。

コロナの終息はもちろん重要ですが、それに特化しすぎて町が抱える本来の課題解決がおろそかになってはなりません。議会活動が大きく制約されており、緊張感を絶やさずに議会を運営していくには町民の皆さんの厳しい目が必要です。

議場内でもできる限りの感染防止対策を施しておりますので、ぜひお時間を作っていただき、密集を避けて傍聴におこしください。

一日も早くコロナが落ち着き、町の活性化に向け動き出せるよう、議会一丸となって取り組んでまいります。

活動的な季節を迎えますが、くれぐれも感染にはお気をつけください。

(佐々木和志)

三戸町議会広報編集委員会
委員長 山田将之
副委員長 久慈 聡
委員 栗谷川 柳子
藤原 文雄
佐々木 和志
竹原 義人